

問題No.1

業種業態と商業施設に関する次の組み合わせのうち、最も不適当なものはどれか。

1. GMS ----- イトヨーカドー
2. ホールセールクラブ ----- 全日食チェーン
3. SPA ----- ザラ
4. カテゴリーキラー ----- トイザラス

【解説】

改訂新版・Vol.4「商業施設 創造とデザイン」p.42 参照

答 2

問題No.2

業種と業態に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 取り扱っている商品というよりも、大きさを含む店舗形態に着目して分類しているのが業態分類である
2. 百貨店は、専門的商品を対面販売で丁寧に売る営業形態をとっており、ジェネラルマーチャンダイズストア（GMS）は、ナショナルブランドをセルフサービス販売方式で大量に売る営業形態を採用している
3. コンビニエンスストア（CVS）は、食材としての食品を総合的に取り扱うスーパーマーケット（SM）と比べ、ほぼそのまま消費できる食品に特化して扱うという特徴がある
4. カテゴリーキラーやディスカウントストアが出現する前は、ジェネラルマーチャンダイズストア（GMS）が最も低価格販売の業態であったように、新しい仕組みをつくる新業態開発により小売業の構造は絶えず変化していく可能性を持っている

【解説】

改訂新版・Vol.4「商業施設 創造とデザイン」p.62～63

答 1

問題No.3

業種店と業態店に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 総合食品スーパーは、食品が中心なので典型的な業種店である
2. パンや雑誌などを扱うコンビニエンスストア（CVS）は、業態店である
3. ホームセンターは業態店である
4. 様々な人が利用する酒店は業種店である

【解説】

改訂新版・Vol. 4「商業施設 創造とデザイン」p. 62

答 1

問題No.4

百貨店の生き残り策に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 大型家電量販店を導入する
2. 流行の大型カジュアル衣料店を導入する
3. 全館、オリジナル商品を開発、展開
4. 各地の物産展を開く

答 3

問題No.5

コンビニエンスストア(CVS)に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. コンビニエンスストア(CVS)全体では、既存店売上げは上昇気味である
2. マーケット密度の高い都市部での出店は、業種業態転換を目指す他業種商店オーナー地主による新規出店が堅調である
3. 新しい出店立地の開拓として、高速道路のサービスエリアや駅売店の展開が見られる
4. 営業時間延長を進めるスーパーマーケット(SM)などの影響から、新商品や新業態開発による独自の販売力強化に努めている

【解説】

改訂新版・Vol. 4「商業施設 創造とデザイン」p. 81

答 1

問題No.6

ショッピングセンター(SC)における環境配慮への様々な取り組みが進んでいるが、今年に入ってから施行された法令・条例のうち最も不適当なものはどれか。

1. 改正省エネ法
2. 神奈川県公共的施設における受動喫煙防止条例もしくは改正東京都環境確保条例
3. 改正リサイクル法
4. 地球温暖化対策の推進に関する法律

【解説】

改正リサイクル法：1991年に再生資源利用促進法が制定。その後、抜本的に改正され資源有効利用促進法として2001年4月に施行。改正リサイクル法と呼ばれる。

答 3

問題No.7

フランチャイズチェーン（FC）、ボランタリーチェーン（VC）に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. フランチャイズチェーンの代表的な店舗としてはマクドナルド、セブンイレブン、吉野家などがある
2. フランチャイズチェーン、ボランタリーチェーンどちらも、システム企業を目標とし、チェーンオペレーションを展開している
3. フランチャイジーは商品販促、商品配送、加盟店指導、教育研修などの見返りとして、チェーン本部に対しロイヤリティを支払っている
4. ボランタリーチェーンには、生活協同組合、シジシージャパン、全日食チェーンなどがある

【解説】

改訂新版・Vol. 4「商業施設 創造とデザイン」p. 85. 生協は組合員組織である。

答 4

問題No.8

商店街に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 商店街の景況感は、半数以上が「停滞している」、1/4以上が「衰退」と回答している。商圈規模が小さい商店街ほど苦戦している
2. 衰退の原因として、「街区内の大型商業施設などによる影響」をおよそ4割があげている
3. 商店街は個別店舗集積である。個別の経営姿勢に大きく影響される
4. 今後取り組むべき事業についての回答として「個店の改善・活性化」が圧倒的に多い

【解説】

改訂新版・Vol. 4「商業施設 創造とデザイン」p. 91

答 2

問題No.9

商店街の活性化支援事業についての表現に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 地方公共団体は、旧来からの商店街のアーケードを維持管理・継承するほか、新設するよう積極的に誘導している
2. 地方公共団体は、空き店舗の対策として、保育施設の誘致や、運営を支援・補助して、成果をあげているケースがある
3. 地方公共団体は、景観整備事業に支援補助し、景観向上を誘導しているケースもある
4. 地方公共団体は、環境整備事業に支援補助し、バリアフリーなまち整備も誘導しているケースがある

【解説】

アーケードの設置には、防災上の観点から慎重で厳格な規制があり、撤去する方向に誘導している

答 1

問題No.10

近年、ライフスタイルセンターと称されるショッピングセンターの開発が日本でも浸透してきた。ライフスタイルセンターの特徴に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 自然環境に配慮された建築や空間デザイン
2. 豊かな暮らしや上質な毎日
3. エブリデーロープライスのバリュー志向
4. 街づくり発想

【解説】

単なる低価格志向ではない。改訂新版・Vol.4「商業施設 創造とデザイン」p.75、151

答 3

問題No.11

チェーンオペレーションの基礎で、生産性向上のための3要素に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 標準化
2. 単純化
3. 専門化
4. 総合化

答 4

問題No.12

ロジスティクスに関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 顧客サービス、需要予測、流通関係のコミュニケーション
2. 在庫管理、荷役、注文処理、商品の製造
3. 商品供給とサービス支援
4. 工場と倉庫の立地選定

【解説】

改訂新版・Vol. 4「商業施設 創造とデザイン」p. 42

答 2

問題No.13

改正薬事法に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 大手ドラッグストアが24時間営業の拡大をはじめた
2. スーパーマーケット（SM）やコンビニエンスストア（CVS）などで一般医薬品（大衆薬）を取り扱うようになった
3. 薬剤師が不在でも調剤できるようになった
4. 登録販売者を活用することで人件費の削減ができた

【解説】

処方・調剤と第一類の取り扱いには薬剤師のみである。しかし、登録販売員の活用により、営業時間の拡大や人件費の削減ができるようになった。

答 3

問題No.14

業態に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. カテゴリーキラーとは、価格破壊と圧倒的品揃えを武器とするスペシャリティ業態である
2. ジェネラルマーチャндаイズストア（GMS）は客の生活全面に対応するゼネラリティ業態である
3. ハイパーマーケットとはロット志向、ボリューム志向、セルフ/市場混合、ディスカウント志向の4つのマーチャндаイジング（MD）上のポイントを中心としたゼネラリティ業態である
4. 百貨店とは、フルアイテム、フルラインの品ぞろえ、リーズナブルイメージの業態である

【解説】

改訂新版・Vol. 4「商業施設 創造とデザイン」p. 147

答 4

問題No.15

駅ビルや駅中（駅ナカ）でのショッピングの展開が増えている。次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 駅中（駅ナカ）とは、駅構内や改札内に設けられた商業施設を指す
2. 主要ターミナル駅では、1日の利用客が100万人を超すところがあり、商業を展開するにあたっての通行量を確保できる利点がある
3. 利用客の属性は幅広く、専門性の高い商品よりも幅広い層が求める食品などの方が一般的に売り上げがよい
4. 駅中（駅ナカ）では営業時間や駅舎の制限の問題などがあり、今後それほど広がらないと考えられている

答 4